

# 六波羅政庁跡、音羽・五条坂窯跡発掘調査の墳墓遺構 －鳥部野関連遺構の調査－

株式会社 文化財サービス

2018年12月より調査を継続していた六波羅政庁跡、音羽・五条坂窯跡の発掘調査は、2019年8月にすべての現地調査を終了しました。5月には、12世紀中ごろとみられる堀跡、版築を伴う石積みなどを検出したことから現地説明会を開催し、調査成果を広く市民に公開しました。

ここでは、現地説明会以降に明らかとなった平安時代末期以前の調査地の様子的一端を紹介したいと思います。

発掘した遺構は方形に溝で区画した方形区画墓、木棺墓、土壇墓があります。木棺墓3基（SK43、48、444 そのうち木炭を敷いたもの48・444）、土壇墓1基、（SK332）、方形区画墓3基（SX135、333、484、うち埋葬施設とみられる土坑（SK200）を伴うものSX135）を確認しました。

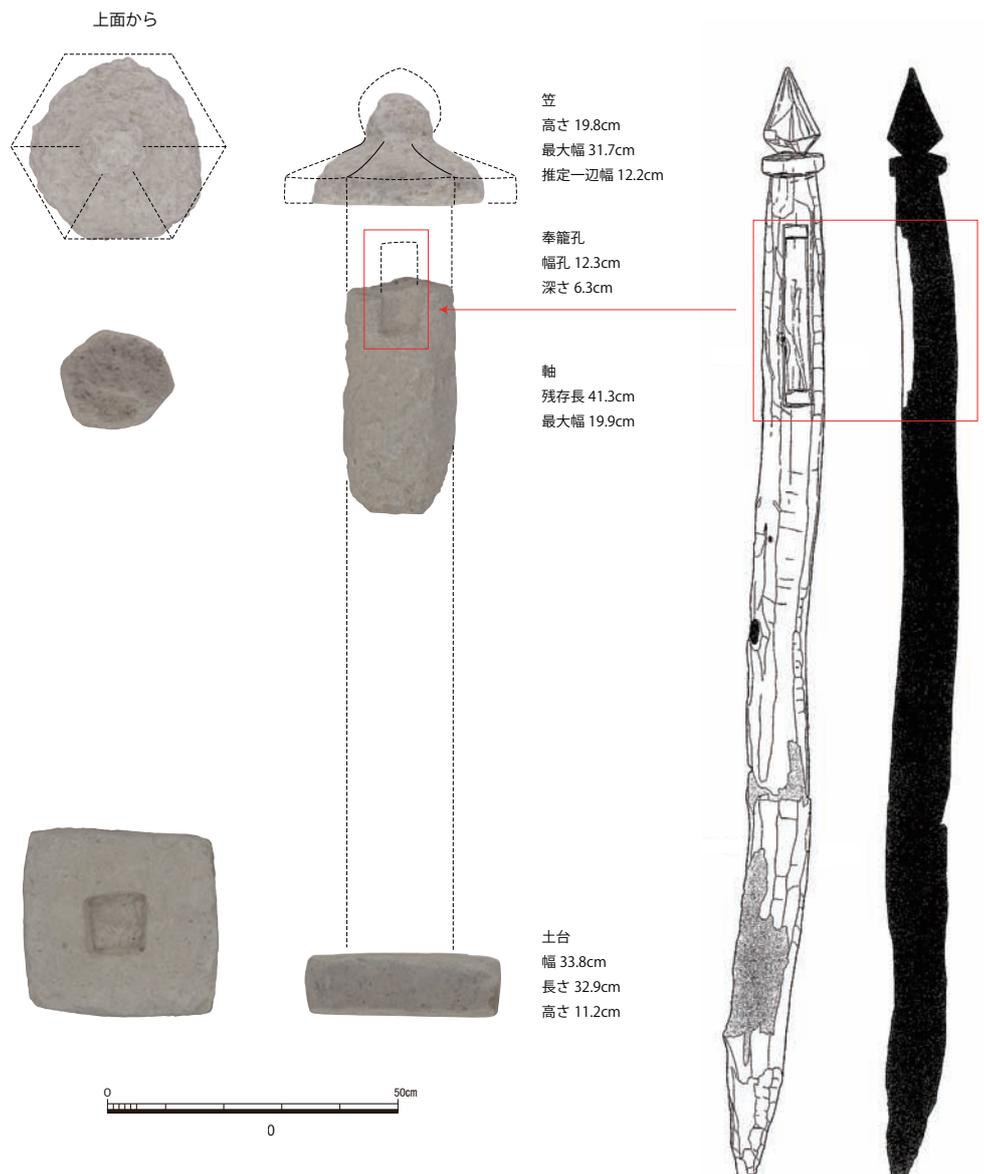
これらの墓跡は、方形区画墓SX135の復元中心と方形区画墓SX333の復元中心が直線上に並び、また木棺墓（SK43・48・444）も直線上に並びます。方形区画墓と木棺墓の中軸線の方法も平行しており計画的に作られた墓域であることが明らかとなりました。

注目できる遺物に凝灰岩製の笠塔婆とみられる石造物があります。

凝灰岩製の笠塔婆は、形状から判断できる部位に、笠・宝珠・軸（塔身、竿）・基礎（台）などがあり、軸には、経などを収めた『奉籠孔』が確認できます。

形状などから現在最古（10世紀末から11世紀前）の卒塔婆とみられる奈良県橿原市一町西遺跡出土の柱状木製品に類似しており、出土石造物は、遺構の所見から11世紀半ば～12世紀前半代にあてられ、石製笠塔婆としては最も古い出土例といえます。

鳥部野は平安京に暮らす様々な人たちの墓所として文献史料などにより知られていただけでしたが、今回の調査によりその一端を明らかにできたことは大きな成果と言えます。



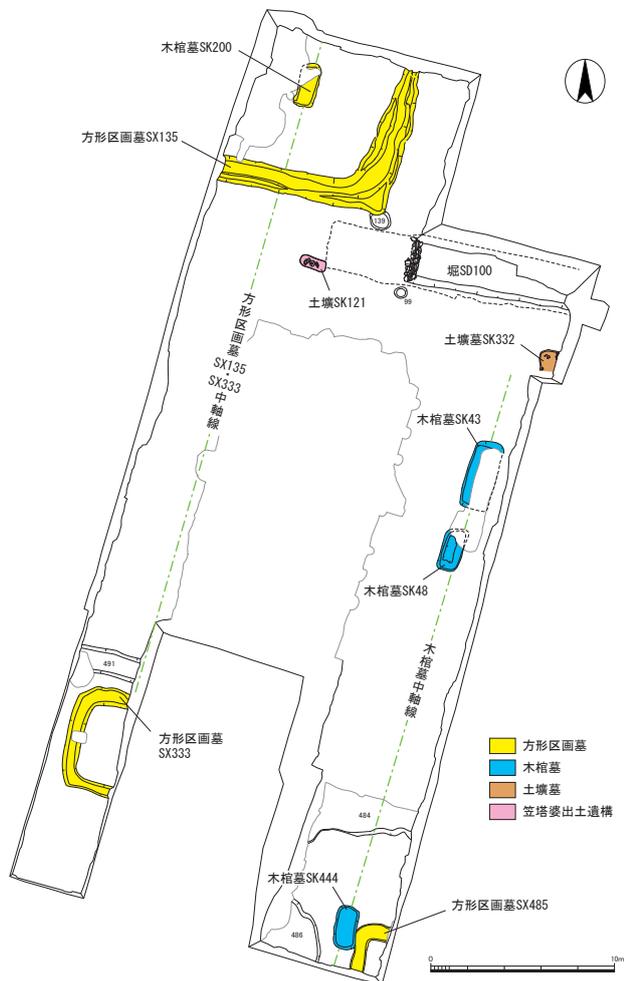
笠塔婆復元



調査地上空より清水寺方面を見る



方形区画墓SX333



六波羅政庁跡、音羽・五条坂窯跡 平安時代後期遺構平面図